



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第10号
(8月26日～9月15日)

令和5年8月25日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部



樹上選果マン

つがるの収穫は適期に！
良品生産に向け、樹上選果の徹底を!!
風害対策を万全に!!!

I 概要

8月21日現在の果実肥大は、各品種とも平年を上回っている。

つがるの熟度は平年より7日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で9月3日頃からと見込まれる。収穫は地色や果肉の熟度を見て2～3回くらいに分けて行う。

着色手入れや除袋の際に、今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果等の摘み取りを徹底する。

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月30～31日頃に実施する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

ハダニ類の発生が見られているので、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。台風や強風に備え、防風網の点検、補強などの風害対策をしっかりと行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

各品種とも平年を上回っている。

○果実肥大

(8月21日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	8.5	-	7.5
	平 年	8.1	-	7.2
	前 年	8.5	-	7.7
	平年比	105	-	104
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本 年	8.4	-	7.2
	平 年	8.1	-	7.0
	前 年	8.8	-	7.6
	平年比	104	-	103
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	9.0	7.8	7.8
	平 年	8.4	7.7	7.2
	前 年	8.5	8.1	7.2
	平年比	107	101	108
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	8.6	-	8.4
	平 年	8.2	-	7.2
	前 年	8.3	-	7.5
	平年比	105	-	117
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	9.0	8.5	7.8
	平 年	8.2	7.7	7.0
	前 年	8.9	8.1	7.3
	平年比	110	110	111

注) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月20日現在、黒石では平年と比較して、糖度は高く、ヨード反応指数はやや低く、硬度、酸度及び着色指数は低い。総合的に見て、熟度は平年よりも進んでいると見込まれる。

○つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：8月20日)

地 域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (ポイント)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード反 応指数
黒 石 (りんご研究所)	本年	259	0.3	15.3	12.0	0.278	4.5
	平年	232	0.5	16.0	11.0	0.307	4.7
	前年	253	0.4	15.0	10.2	0.288	4.4

注1 調査系統：普通系

2 平年：2001年～2020年の20か年平均

3 落果防止剤(ストップポール液剤)散布日：8月15日

4 着色指数：0～5(大きい数値ほど着色良好)

5 ヨード反応指数：ヨードテンブロン反応指数0～5(小さい数値ほどでんぷんが少ない)

(3) 作業等の進み（8月23日現在）

摘果の見直し、早生品種の着色管理、支柱入れや草刈りが行われている。

2 作業の重点

(1) つがるの収穫

熟度は平年より7日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で9月3日頃からと見込まれる。熟期が揃わないので、収穫は地色や果肉の熟度を見て2～3回くらいに分けて行う。着色を待ちすぎて収穫が遅れると、軟質化など品質低下につながるのので、適期に収穫する。

山選果に当たっては、日焼け果、さび果などは、出荷先の基準により選別・出荷する。山選果で取り除いた果実は加工用に仕向ける。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油上がりなど品質の劣化が早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

つがるの収穫時の標準指標

硬度	糖度	ヨード反応	食味
13～16ポンド	12%以上	3.5以下	3.5以上

注) 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

(2) 樹上選果

ふじ、王林などで着果量の多い樹がまだ見られる。着色手入れや除袋の際に、今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果等の摘み取りを徹底する。

(3) 「8月末」の薬剤散布

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月30～31日頃に実施する。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

シンクイムシ類の産卵が続いているので、防除剤を使用する。

「8月末」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	8月30～31日頃	アリエッティC水和剤 又はダイパワー水和剤 又はベフラン液剤25	800倍 1,000倍 1,500倍

炭疽病の発生が多い園地では、ベフラン液剤25を選択し、オーソサイド水和剤80の800倍も散布する。

アリエッティC水和剤及びベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(4) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシ AL 水和剤1,000倍も使用する。
ポリオキシシ AL 水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(5) 「9月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

すす斑病・すす点病の発生が例年多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、黒石、弘前、三戸で9月15日頃に特別散布を行う。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

「9月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

地域	散布時期	薬剤名	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	9月15日頃	オーソサイド水和剤80 又はストライド顆粒水和剤	800倍 1,500倍

(6) 腐らん病対策

腐らん病は感染してから1～2年後に発病するため、適切な対策を速やかに講じることが重要である。

夏場でも降雨により未処置病斑から胞子が飛散し、来年以降の発生につながるため、胴腐らんの治療部を再点検し、病斑の進展が見られる場合は直ちに適切な処置を行う。胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採し、速やかに園外へ搬出する。

収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入するので、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

(7) 黒星病対策

被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(8) 炭疽病、輪紋病対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

輪紋病のいぼ皮病斑は見つけ次第、切り取るなど適切に処分する。

(9) ハダニ類対策

ハダニ類の発生が見られているので、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）を散布した後は使用しない。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	倍数	使用時期	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1,500倍	収穫21日前	1回	○	×
バロックフロアブル	2,000倍	14日	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	2,000倍	7日	1回	○	○
オマイト水和剤	750倍	3日	1回	○	○
コロマイト乳剤	1,000倍	前日	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1,000倍	前日	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	1,000倍	前日	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	×
ダニコングフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(10) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、9月以降も防除剤を使用する。

(11) リンゴコカクモンハマキ対策

幼虫の発生の多い園地では、9月以降にスピノシン剤を使用する。

発生が多い場合は、果実に接触している葉を早めに摘み取り、果実被害の軽減に努める。

リンゴコカクモンハマキに対する殺虫剤の適用表（9月以降）

薬剤名		倍数	使用時期	年間使用回数
スピノシン剤	ディアナWDG	10,000倍	前日	2回
	デリゲートWDG	10,000倍		

(12) クワコナカイガラムシ対策

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋して被害の軽減を図る。

(13) 中・晩生種の着色手入れ

着色手入れは、早生ふじで9月10日頃から、シナノスイート及びジョナゴールド（無袋）で9月20日頃からは行う。

早くからの強い葉摘みは品質低下を招くので行わない。

日焼け果の発生を軽減するため、遮光資材（遮光率10～20%程度）を樹上に被覆する。なお、遮光資材は、日焼けの心配がなくなり次第取り外す。

摘葉剤ジョンカラプロを使用する場合は、ふじのみとし、使用時期は「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

(14) ジョナゴールドの除袋

除袋は9月15日頃～25日頃にかけて行う。

着色むらをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉も摘み取る。

日焼けを発生させないため、二重袋の内袋をはぐ時は、曇天か晴天の日中（10時～14時）に行う。

(15) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り

樹冠内部に十分日光を入れ、葉液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので支柱入れや枝吊りを行う。黄色品種でも行い品質向上に努める。

日焼け果の発生防止のため、高温が続くと予想される場合は、徒長枝の整理や支柱入れ等の作業は控える。

(16) 土壌乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(17) 風害対策

台風の接近や強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(18) 鳥害対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

(19) ビターピット対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいのでカルシウム剤の果面散布を丁寧に行う。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には葉害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

3 一般作業

- (1) 草刈り (2) 苦土欠乏対策

4 今後の作業 (9月16日～10月5日)

- (1) 中生種の収穫 (2) 中・晩生種の着色手入れ (3) 樹上選果
(4) 病害虫対策 (5) 風害対策 (6) 鳥害対策 (7) 草刈り
(8) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り

《 りんご研究所参観デーのお知らせ 》

黒石会場 (りんご研究所) : 9月6日 (水)、7日 (木) 9:00～15:00

五戸会場 (りんご研究所県南果樹部) : 9月14日 (木) 9:00～15:00

※研究成果についてポスターによる展示などがあります。詳しくは、りんご研究所
「イベント情報一覧」 (<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2023063000037/>)

《 加工りんごマッチング商談会のお知らせ 》

加工りんごの円滑な取引に繋げることを目的に、生産者と加工業者が個別に情報交換・商談できるマッチング商談会を開催します。

加工りんごを条件の合うところに売りたい生産者の方や関係団体の方、必要な原料を安定的に確保したいりんご加工業者の方など、多数の参加をお待ちしております。

日時・場所 : 9月6日 (水)、7 (木) 9:00～15:00

上記のりんご研究所参観デー会場内にて開催

※ 詳しくはこちら



《 「あおり9」の生果実流通 》

現在、「あおり9」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和7年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。

令和7年10月27日以降は、「あおり9」で販売してください。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 農作業安全を心がけましょう 》

機械を使って作業を行う際は、焦らず、急がず、慎重に、を基本に事故のないよう十分注意しましょう。はしごの上で作業する時は、足場がしっかり安定しているか確認するとともに、天板の上には乗らないようにしましょう。園地に出かける際は、携帯電話を必ず持参し、家族などに行き先や帰宅時間を伝えてから出かけるようにしましょう。

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

次回の発行は令和5年9月15日（金）の予定です。

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5093、5094
017-734-9492直通